

報寺敬覚

10月号

月刊●敬覚寺報

〒177-0032 東京都練馬区谷原6-8-12
TEL 03(3996)1833 大江義宏

ドイツ連邦共和国 ハンベルクの旧市街

▼二〇〇二年十月一日▲

十一世紀の初頭ローマ帝国皇帝ハインリヒ二世は、ドイツ内部から大西洋に流れ込むメイン川に近いハンベルクに、ハンベルク司教区を創設しました。これは、この流域に住むスラブ人のキリスト教化を図る為でした。

ここに建つ多くの建造物はバロック様式を取り入れており、世界遺産の保護下にあるのは二千三百の多くを数えます。

第二次世界大戦のおりにも、幸いなことに小さな被害しかこうむらなかつた旧市街は、この数年の間に約五十億円もの資金を投入して修復されてきました。しかもその資金のかなりの部分は建物の所有者が負担しています。

バロック建築の建ち並ぶ美しい街並を愛する住民の方々が、そうした行動に思いをよせたのでしよう。

一九九三年文化遺産に登録されました。

うけつがれるもの うけついでいく心
—— 世界遺産 ——



迷路の様に広がるハンベルクの街並み。中央二本の橋にまたがる形で旧市庁舎が建つ。手前右に見えるのはガイヤースヴェルト宮殿。

ハワイ開教・その感動

ハワイ開教区アイエア本願寺住職

川路 広美



一九九二年九月十一日は、ハリケン「イニキ」が、ハワイ州のカワイ島に上陸し、島の全域にわたり甚大な被害を与えました。でも毎年九月十一日が訪れる度に、再度ハリケンがあるという不安はなく、その復興に逞しい努力が続けられました。自然現象による被害であったからです。

今年の九月十一日は、昨年同時多発テロ事件より丁度一年に当たるといふ事で、何が起きるかわからない不安と心配から厳しい警戒がなされました。人間の意図による大事件であったからです。人の心の愚かさと恐ろしさを思い知らされた事であり

ます。

親鸞聖人の「愚禿悲歎述懐」(三首目)に

「悪性(あくせい)さらにやめがたし

こころは蛇蝎(へびくわ)のごとくなり

修善(しゆぜん)も雑毒(ざつどく)なるゆへに

虚仮(きょけ)の行(ぎやう)とぞなづけたる」

とあります。誠に私自身が、地球上に住む最も危険な生きものである事が知らされます。

私の口は「私は悪人でございます」と云う。でも私の頭は「自分が悪人であること」を知ってはいない。私の心は「自分は悪人ではない」と思っている。私の顔は「善人でも悪人でもない表現」に苦しむ。如来の大悲の前に「愚禿親鸞」と名のられた方を宗祖と仰がせていただける慶びと幸せに、恭(かたじ)けない涙がこみあげる念いでありませぬ。

皆さん方も御存知の如く、今日の社会には実に多くの宗教があります。そして新聞や、ラジオやテレビ等で巧みな伝道活動が展開されています。でも現実はそのような宗教によって、一層迷いを深くし、不安を増大させている人々が少なくありません。人間の無明の計いを宿しているからです。

ハワイに於ける浄土真宗の伝道には、人間至上主義の反省と自力の計いに執着しない姿勢がとても大切です。"平和のため"とか、"共存共栄"という名目の多し今日、また複数の宗教団体の指導者が、一つの団体名を成して、協調して宗教活動を成す今日、第三者はどの宗教も同じであるという感じ方をする場合があります。

専愛の精神で、お互いに仲良く親睦を深めあう事はとてもすばらしい事でありませぬが、ここで大事な点は、協調と、教学の混同や妥協とは異なるという事です。相手の存在や立場を尊重する私情で、浄土真宗の根本をなす「絶対他力の救済と信心正因、称名報恩」の立場がゆがめられてはなりません。

ハワイ開教区の寺院は、その殆どが百年の歴史を重ねています。所在地や社会現象の変化で大小盛衰(せいすい)はありますが、浄土真宗のみ教えで一貫されています。教団経営で重要な役割りを果たしてきた日本語学園は、現在では保育園や年長者施設とかわりつつあります。私は常に逞しい前進に胸をおどらせています。

仏説無量寿経(大経)〔その2〕

ぶつ ぜつ む りょう しゆ きやう



経子◇お彼岸が過ぎて、ようやく秋らしくなりましたね。

住職◆今年の夏は、例年になく暑かったからね。

経子◇「仏説無量寿経」の続きをお願いします。

住職◆「大経」の漢訳をお話しましたね。

経子◇はい。漢文のお経が大変な苦勞で訳されたことを学びました。

住職◆では、今月は「大経」がどこで説かれたかを見ていきましょう。

経子◇お経の説かれた場所はわかるのですか。

住職◆お経はお釈迦さまが話された内容を、お弟子が記録して伝えたものです。お釈迦



香闍崛山頂上 釈尊説法の座

さまが、いつ、どこで、だれに、なにを語られたかが重要ですよ。

経子◇「大経」はどこですか。

住職◆「王舎城・香闍崛山」とお経最初の行にあります。

経子◇インドでしょう。難しい地名ですね。

住職◆お釈迦さまの頃は、インドにはいくつかの都市国家が存在して、最も栄えたのがマガダ国といって、中心はラジャ・グリハでした。

経子◇ラジャって、マハラジャのラジャですか。

住職◆その通り。王様をラジャといい、王の家つまりラジャグリハで、訳して「王舎城」となるのです。現在そこはラジギールとよばれていて古いレンガの城壁の跡が残っています。

経子◇次の「香闍崛山」は面白い名ですね。

住職◆「王舎城」はインド平原には珍しく、いくつかの丘陵に囲まれていて、東の岩山にグリドラ・クータというのがあります。漢字で音写して香闍崛山と表わします。意味は鷲の峰で、「靈

鷲山」とも漢訳します。黒に白のまだらの混じる岩が出っ張り、遠くから鷲の姿に見えるので鷲の峰と呼ばれたのでしよう。

経子◇その山上で、お釈迦さまが「大経」をお説きになったのですね。

住職◆そう。多くの大乘経典がこの「靈鷲山」で説かれていますよ。『仏説無量寿経』も「王舎城・香闍崛山」が舞台となっているのです。

経子◇では、王舎城の王様もお釈迦さまを大事にされていたのですか。

住職◆当時の王はピンビサーラ、音写して頻婆娑羅と書く。お釈迦さまに深く帰依してお釈迦さまが常に住まわれるようにと「竹林精舎」を城近くに寄進し、仏法を聞くために香闍崛山(靈鷲山)に登る道を整備していますよ。その道は今でもピンビサーラ・ロードと呼ばれています。

経子◇私もインドに行つて王舎城香闍崛山に登っているような気持ちになりました。ありがとうございました。

蓮通信

■本願寺ホームページ
アドレスのご案内
豊富な情報量で楽しく見る事が出来ます。
アクセスしてみてください。
<http://www.hongwanji.or.jp/>

■本願寺出版社の定期刊行物

(一家に一紙、門信徒必読の新聞)

旬刊 本願寺新報

毎月三回発行 年間購読 四、〇八〇円

一部 一二〇〇円

(家族で、みんなで読める、仏教家庭誌)

月刊 大乘

毎月一回発行 年間購読 四、五〇〇円

一部 三七五円

(浄土真宗聖典の学習誌)

季刊 せいいてん

年四回発行 年間購読 二、八〇〇円

一部 七〇〇円

いずれも税込・送料共

お申し込み電話〇七五―三七七―四一七一

本願寺出版社まで

(書籍カタログ無料で送っていただけます。電話同)

■京都の報恩講

・十月は京都各別院で報恩講が営まれます。

十月六日(日) 北山別院報恩講

十月七日(月) 角坊別院報恩講

十月九日(水) 日野誕生院報恩講

十月十三日(日) 山科別院報恩講

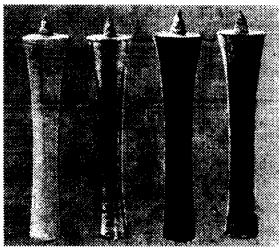
十月十五日(火) 大谷本願報恩講

十月二十二日(火) 西山別院報恩講

お仏具を考える

◆和ローソク◆

近ごろ、なぜか若い人達にもブームになってきているのが日本製のローソク、和ロウです。洋ローソクはパラフィン系の原料で製造されていますが、日本ローソクは「はぜ」の木の油又はやし油から造られます。在家用の2号(長さ約8cm)3号(10.5cm)から、寺院用の二十号、三十号、五十号、最も大きい百号まであります。ローソクは、金、銀、朱、白と色付けされています。金は結婚式用、銀は葬儀用、白は通常用、そして、朱は報恩講の時に使用されるのが普通です。洋ローソクに比べると炎の長さが長く、多少油えんが出ますが、風にも強く、あたたか味のある炎といった感じがします。電球世代の若い人たちの間に静かなブームと



なっているのは、「いやし」とか「やさし」とかをそこに求めているからなのでしようか。

日常に使う仏教語

■道楽・三昧・醍醐味

『退職してから毎日が日曜日で、秋は道楽の魚釣り三昧ですよ。大物がかった時の醍醐味は他の人にはわからないでしょうよ。』

道楽―仏道の尊い法悦の楽しみを道楽といえます。生死の解決を得た人の信心生活こそ真の道楽です。

道楽は真実を求め徹底したものであって、気楽な趣味とはもともと違っているのです。

三昧―サンスクリット(梵語)のサマデーの音写、心を一つに定めること(必定・禅定)です。

南無阿弥陀仏こそは一心正念、念仏三昧です。

醍醐味―悟りの味を醍醐味といいます。涅槃経に、牛乳を精製する五つの段階に当てはめて、

乳味(にゅうみ)

熟酪味(じゅくらくみ)

生酥味(しょうそみ)

熟酥味(じゅくそみ)

醍醐味(だいごみ)のうち最高の

醍醐味を仏の悟りと説きます。